

## ■ 本文

男もすなる〔①〕日記といふものを、女もしてみむ〔②〕とて、するなり〔③〕。

その年の十二月の二十日あまり一日の日、戌の時に門出す〔④〕。そのよし、いさ  
さかにものに書きつく〔⑤〕。

(注) すなる = 「す」 + 助動詞。／戌の時 = 午後八時ごろ。／門出す = 旅立ちのために出  
発する。

## ■ 設問 (全22問)

- 冒頭の「男もすなる」の「も」と「女もしてみむ」の「も」は、二つを並べて述べる働きをしている。この「も」の意味・用法として最も適当なものを、次から選べ。  
ア 強意 イ 並列 (同類) ウ 疑問 エ 禁止
- 傍線部①「すなる」を文法的に説明したい。次の小問に答えよ。
  - 「す」の終止形と品詞・意味を答えよ。
  - 「なる」は何という助動詞の何形か。またその意味 (伝聞・推定のどちらか) を答えよ。
  - 「すなる」を現代語訳せよ。
- 傍線部②「してみむ」の「む」の文法的意味として最も適当なものを、次から選べ。  
ア 過去 イ 意志 ウ 打消 エ 完了
- 傍線部②「してみむ」を現代語訳せよ。
- 傍線部③「するなり」の「なり」は、①の「なる」とは別の助動詞である。次に答えよ。
  - 「なり」の文法的意味 (断定・伝聞推定のいずれか) を答えよ。
  - ①の「なる」と③の「なり」を見分ける手がかりを、接続の観点から簡潔に説明せよ。
- 傍線部③「するなり」の「する」は、サ変動詞「す」の何形か。活用形を答えよ。
- 「その年の十二月の二十日あまり一日の日」とは、何月何日のことか。漢数字で答えよ。
- 「戌の時」とは、現在のおよそ何時ごろか。次から選べ。  
ア 午前六時ごろ イ 正午ごろ ウ 午後八時ごろ エ 午前零時ごろ
- 傍線部④「門出す」の意味を答えよ。
- 傍線部⑤「もの」に書きつく」を現代語訳せよ。
- 冒頭の一文「男もすなる日記といふものを、女もしてみむとて、するなり。」を、全体として現代語訳せよ。
- この日記の作者は誰か。人名を漢字で答えよ。
- 問12の作者は、ある勅撰和歌集の編者の一人としても有名である。その和歌集名を答えよ。
- 『土佐日記』は何時代に成立した作品か。次から選べ。  
ア 奈良時代 イ 平安時代 ウ 鎌倉時代 エ 江戸時代

15. 作者は当時、土佐でどのような立場にあったか。本文・解説をふまえて簡潔に答えよ。
16. 当時、男性が日記を書く際に一般的に用いた文字（文体）は何か。漢字二字で答えよ。
17. それに対し、作者が『土佐日記』で用いた文字は何か。答えよ。
18. 作者は本文で、自分自身をどのような人物に見立てて（仮託して）書いているか。答えよ。
19. 作者が、男性でありながらわざわざ女性に仮託して書いたのはなぜだと考えられるか。文字（文体）との関係に触れて、二十字以内で説明せよ。
20. 『土佐日記』は、日本文学史上どのような点で画期的な作品とされるか。「仮名」という語を用いて簡潔に説明せよ。
21. 『土佐日記』のあとに書かれた仮名日記文学を、次から一つ選べ。  
ア 古事記    イ 蜻蛉日記    ウ 万葉集    エ 徒然草
22. 本文全体は、誰の立場・視点から語られているか。最も適切なものを次から選べ。  
ア 作者である男性自身    イ 作者が仮託した女性    ウ 土佐の国の役人    エ 京で待つ家族